

課題：れんこんの生産安定

ねらい

れんこん腐敗病の被害が大きいほ場では、収穫が激減するだけでなく、耕作放棄地になることもあります。れんこん腐敗病に登録のある農薬はなく、太陽熱消毒が行われていますが、労力や経費がかかること、実施時期が限られること、1作休まなければならない場合があること等が課題となっています。

そこで、労力や経費が太陽熱消毒ほどかからない水封式土壌還元消毒の実証に取組み、れんこん腐敗病対策の選択肢を増やすことにより、れんこんの生産安定を図ります。

活動地域・対象

地域：鳴門市，松茂町，北島町，藍住町，板野町，徳島市
対象：れんこん生産者

普及活動の目標

- ①水封式土壌還元消毒の実証と普及
- ②水封式土壌還元消毒の実施による収量の増加

目標に向けた活動概要

1 担当者会の開催

これまでの成果や今後の取組みについて検討（写真①）



写真①

2 腐敗病の現地調査

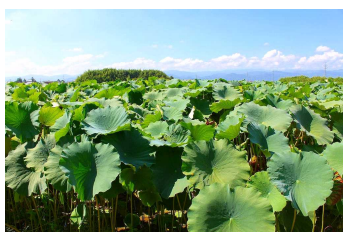
腐敗症状がある生育中れんこんの掘り取り（写真②）



写真②

3 実証ほ場の生育・収量調査

前年度設置した実証ほの生育・収量を調査（写真③）



写真③

4 水封式土壌還元消毒実証ほの設置

関係機関が連携し、実証ほを設置（写真④）



写真④

5 産地連携会議の開催

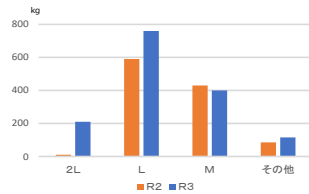
生産者、JA、市場、県等関係機関で生産や販売対策について検討（写真⑤）



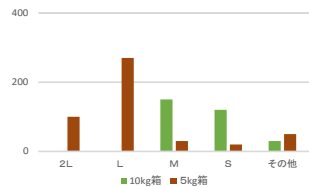
写真⑤

普及活動の成果

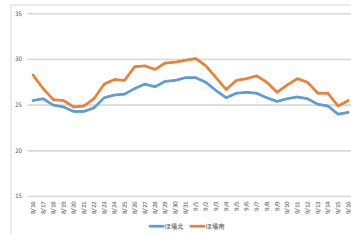
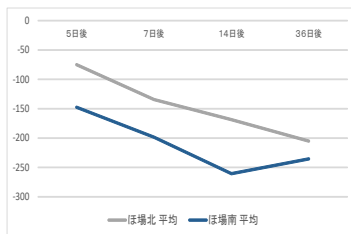
1 前年度設置した実証ほの調査結果



- 土壌還元消毒後のほ場では、生育が改善され、収量が前年より3割程度増加したほ場もありますが、あまり増加しなかったほ場もありました。



2 今年度設置した実証ほの調査結果



- 実証ほ設置後1～2週間で還元状態になることが分かりました。
- 9月中旬くらいまでは、25℃の地温が確保されることが分かりました。

用語説明

【水封式土壌還元消毒】

水封式土壌還元消毒は、土壌に小麦ふすま等易分解性有機物を入れ、代かきをして土壌中の空気を追い出し、土壌を嫌気状態（還元状態）にします。嫌気状態では、嫌気性細菌が活発に働き、有機酸などの抗菌成分を生成し、病原菌の細胞膜を破壊・溶菌し、消毒効果を得ることができます。

土壌還元消毒は、土着の土壌微生物の力によって消毒する環境にやさしい技術です。

今後の発展方向

- 1 腐敗症状の原因究明のため引き続き調査を行います。
- 2 新しい資材や処理時期等について検討します。
- 3 効果的な水封式土壌還元消毒が実施できるようマニュアルを作成します。

関係者からの声

- 収量は3割くらい増加した。腐敗症状のあるほ場でまた試したい。（生産者）
- 散布機がない場合、小麦ふすまの散布に労力がかかる。（県関係者）

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922